

科目名	臨床心理学		
担当教員	小出 智則		
	実務経験		有
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
3	前	2	15
履修目的・授業概要			
臨床心理学の基本的な知識を学びます。			
到達目標			
臨床心理学の基本的学びより，人の心の理解を深める。			
授業の形式・方法			
講義			
成績評価の方法・基準			
レポート課題（100％）			
学生へのメッセージ			
人を援助する職業に必要な人間理解の糸口となる心理学の基礎知識を学んでいきましょう。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
なし			

コマ	履修内容	教員
1	オリエンテーション	小出
2	臨床心理学とは何か	小出
3	心について	小出
4	パーソナリティー	小出
5	臨床心理アセスメント	小出
6	臨床心理検査	小出
7	臨床心理検査 2	小出
8	臨床心理検査 3	小出
9	臨床心理検査 4	小出
10	心理療法 1	小出
11	心理療法 2	小出
12	心理療法 3	小出
13	心理療法 4	小出
14	心理療法 5 まとめ	小出
15	試験	小出

科目名	リハビリテーション医学		
担当教員	大田哲生 及川欧 遠藤寿子		
	実務経験		有
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
3	通	1	15
履修目的・授業概要			
リハビリテーションの意義を、より深く理解するために、広い立場から代表的なものを引用して総合的に学習する。			
到達目標			
リハビリテーションで実施する疾患・症状を理解し、治療に適應できる。			
授業の形式・方法			
講義			
成績評価の方法・基準			
試験 100%			
学生へのメッセージ			
皆さんがこれから、関わる患者様の事です。現場に出る前に理解しておいてください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
現代リハビリテーション医学	千野直一	金原出版	6820

履修内容		教員
1	リハビリテーション医学総論	大田
2	廃用症候群・ADL	大田
3	内部障害のリハビリテーション	及川
4	RA・骨関節疾患のリハビリテーション	及川
5	小児疾患のリハビリテーション	及川
6	脊損のリハビリテーション	及川
7	リハビリテーション医学のトピックス	大田
8	がんのリハビリテーション	及川
9	在宅（訪問）リハビリテーション	及川
10	脳卒中のリハビリテーション	遠藤
11	神経疾患のリハビリテーション	遠藤
12	高次脳機能障害のリハビリテーション	及川
13	言語障害のリハビリテーション	大田
14	嚥下障害のリハビリテーション	遠藤
15	試験	担当

科目名	作業療法概論Ⅲ		
担当教員	作業療法学科教員		
	実務経験		有
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
3	通年	1	15
履修目的・授業概要			
問題基盤型学習（Problem-Based Learning：PBL）方式を用いた症例検討。PBLを通じ、症例の問題点・利点を明らかにし、不足している知識を自ら調べ、情報交換をし、発表するという経験をする。またOSCEを実施し臨床能力を高める			
到達目標			
ディスカッションや資料調べを通じ、積極的にPBLに参加できる。自らの実習経験を元に、適切なPBLシナリオが作成できる。得た知識を発表し、レポートを作成する。臨床現場で活用できる。			
授業の形式・方法			
配付されたシナリオをグループ単位でディスカッション、発表、2コマ連続で行う。			
成績評価の方法・基準			
出席状況や参加態度で評価。			
学生へのメッセージ			
臨床能力を非常に高める講義である。積極的な参加を求む。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格

コマ	履修内容	教員
1	全領域のPBL①	担当教員
2	全領域のPBL②	担当教員
3	全領域のPBL③	担当教員
4	全領域のPBL④	担当教員
5	全領域のPBL⑤	担当教員
6	全領域のPBL⑥	担当教員
7	全領域のPBL⑦	担当教員
8	全領域のPBL⑧	担当教員
9	全領域のPBL⑨	担当教員
10	全領域のPBL⑩	担当教員
11	全領域のPBL⑪	担当教員
12	全領域のPBL⑫	担当教員
13	全領域のPBL⑬	担当教員
14	OSCE	担当教員
15	OSCE	担当教員

科目名	日常生活活動Ⅱ		
担当教員	京谷 政昭 他 片桐 洋介		
	実務経験		有
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
3	前	1	15
履修目的・授業概要			
日常生活活動の評価・治療の実践に関する各種背景的知識の整理，および作業療法実践の理論的背景について講師の具体的臨床経験から学ぶ			
到達目標			
1. ADL評価に関して一連の手続きについて理解する。			
2. ADL支援計画立案の構造について理解する			
授業の形式・方法			
講義・演習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験			
学生へのメッセージ			
授業への積極的な参加を望む。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
なし，資料配布			

コマ	履修内容	教員
1	脊髄損傷の疫学	京谷
2	脊髄損傷評価	京谷
3	脊髄損傷評価	京谷
4	脊髄損傷の主な症状	京谷
5	脊髄損傷の作業療法アプローチ	京谷
6	脊髄損傷の作業療法アプローチ	京谷
7	実技	京谷
8	症例検討	京谷
9	地域リハビリテーション	片桐
10	訪問リハビリテーション評価	片桐
11	訪問作業療法アプローチ	片桐
12	訪問作業療法アプローチ	片桐
13	高齢者の身体特性	片桐
14	住環境評価，グループワーク	片桐
15	試験	京谷/片桐

科目名	日常生活活動実習Ⅱ		
担当教員	石井 綾子 鈴木 渉		
	実務経験		有
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
3	前	1	23
履修目的・授業概要			
事例提示から問題基盤型学習によるディスカッション、情報収集、発表のプロセスを踏んだ学習を行い、クリニカルリーズニングの視点を高める。FIMの詳細な評価方法やリスク管理について学び、臨床実習へ向けて理解を深める。自助具を作成し、創造性を豊かにする			
到達目標			
実習前にプレ事例報告を行い、臨床実習に必要な思考過程を学ぶ			
授業の形式・方法			
問題解決型授業形式（PBL）			
成績評価の方法・基準			
事例報告書40%，発表10%			
学生へのメッセージ			
PBL学習により自ら調べ、まとめ、発表するプロセスを通して、能動的に学習できる能力を身に付けてください			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
日本作業療法士協会事例集		日本作業療法士協会	

コマ	履修内容	教員
1	オリエンテーション、PBL学習	鈴木
2	事例提示①	鈴木
3	課題学習	鈴木
4	課題学習	鈴木
5	課題学習	鈴木
6	発表会	鈴木
7	事例提示②	鈴木
8	課題学習	鈴木
9	課題学習	鈴木
10	課題学習	鈴木
11	発表会	鈴木
12	FIMについて	石井
13	FIMについて	石井
14	FIMについて	石井
15	FIMについて	石井

コマ	履修内容	教員
16	FIMについて	石井
17	リスク管理について	石井
18	リスク管理について	石井
19	リスク管理について	石井
20	自助具作成	石井
21	自助具発表	石井
22	自助具は	石井
23	筆記試験	石井
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

コマ	履修内容
31	
32	
33	
34	
35	
36	
37	
38	
39	
40	
41	
42	
43	
44	
45	

科目名	身体障害Ⅲ		
担当教員	中澤肇 田中団, 片岡慶大, 村田絵吏, 志子田未央, 渡邊笑, 島貫克哉、鳥羽 山、角田美優		
	実務経験		有
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
3	前	1	15
履修目的・授業概要			
老年期に代表される疾患の病態について理解を深める。急性期における作業療法の展開やリスク管理について触れる。また、実症例や模擬実習を通して、臨床業務に必要な技術や経験を構築する。			
到達目標			
・老年期に代表される疾患について把握する ・各疾患やトピックスにおけるリハビリテーションの作業療法について把握する。 ・模擬実習とグループワークを通して、作業療法の評価・介入について把握する。			
授業の形式・方法			
講義についてレポートを作成してもらい、その内容を見て評価します。			
成績評価の方法・基準			
課題提出(100%)			
学生へのメッセージ			
急性期の第一線で働く作業療法士が講義します。新しい知見に触れる機会も多いと思いますが、積極的な講義への参加を期待します。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
なし			

コマ	履修内容	教員
1	失語，構音障害	中澤
2	嚥下障害	中澤
3	がんのリハビリテーション（総論）	渡邊
4	〃（各論）	村田
5	呼吸器疾患の作業療法について	村田
6	小児領域の作業療法について	片岡
7	血管外科の作業療法について	志子田
8	心大血管の作業療法について	志子田
9	脳画像・高次脳機能障害について	片岡
10	神経難病について	片岡
11	THA後のリハビリテーションについて	田中
12	人間作業モデル（MOHO）について	田中
13	模擬実習・グループワーク	角田・島貫・鳥羽山
14	模擬実習・グループワーク	角田・島貫・鳥羽山
15	試験(レポート)	角田・島貫・鳥羽山

科目名	身体障害実習Ⅱ		
担当教員	川上 和敏 小橋 泰文		
	実務経験		有
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
3	前	1	23
履修目的・授業概要 脳血管疾患（片麻痺，高次脳機能障害）への介入を中心に評価・治療の考え方や実践方法，作業・環境・自己の治療の応用について学ぶ。			
到達目標 脳血管疾患を中心に身体障害領域の作業療法実践における評価から治療計画を立案し，その根拠やリスク管理まで説明することができるようになること，各種テストバッテリーについては，その実施手順，方法，結果解釈までを理解し実施できるようになること。			
授業の形式・方法 講義，実技			
成績評価の方法・基準 実技受講態度（50％），筆記テスト（50％）			
学生へのメッセージ 評価臨床実習や総合臨床実習をイメージし，その準備に繋げること。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
標準OT学作業療法評価学第3版		医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	授業オリエンテーション ・脳血管疾患の特徴 ・予後予測に基づく治療計画	川上
2	脳血管疾患について ・脳血管栄養領域，機能局在 ・高次脳機能障害の評価と治療	川上
3	脳血管疾患について ・片麻痺の診方と治療介入 ・姿勢・動作分析	川上
4	バランス機能の診方 ・支持基底面と重心線 ・CA, CW, CMについて	川上
5	動作分析 ・寝返り ・起き上がり	川上
6	動作分析 ・立ち上がり ・歩行	川上
7	動作分析 ・上肢機能 ・利き手機能	川上
8	検査技法 1 ・FBS, FR, TUG	川上
9	検査技法 2 ・STEF, MFT, パデュペグ	川上
10	検査技法 3 ・kohns, ベントン, レーブン	川上
11	検査技法 4 ・WAIS-R	川上
12	検査技法 4 ・WAIS-R	川上
13	検査技法 5 ・RBMI, CAT・CAS, BADS, BIT	川上
14	検査技法 5 ・RBMI, CAT・CAS, BADS, BIT	川上
15	高次脳機能訓練 ・促通法，行動変容法，環境整備など	川上

コマ	履修内容	教員
16	上肢機能訓練 ・ 体表解剖	川上 小橋
17	上肢機能訓練 ・ 体表解剖	川上 小橋
18	上肢機能訓練 ・ 促通法	川上
19	上肢機能訓練 ・ 環境整備, 自助具適応	川上
20	上肢機能訓練 ・ 片手動作・利き手交換訓練	川上
21	コミュニケーション装置の適合支援 ・ コミュニケーション障害 ・ コミュニケーションデバイスの活用	川上
22	コミュニケーション装置の適合支援 ・ コミュニケーション支援の事例紹介 ・ 他職種連携	川上
23	試験	川上
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

コマ	履修内容
31	
32	
33	
34	
35	
36	
37	
38	
39	
40	
41	
42	
43	
44	
45	

科目名	精神障害Ⅱ		
担当教員	手塚 隆文 他(4名) 佐々木 勇 中塚 育美		
	実務経験		有
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
3	後	1	15
履修目的・授業概要			
精神科領域の対象疾患の理解と臨床作業療法について学ぶ。			
到達目標			
精神科における作業療法士の役割について理解を深める。			
授業の形式・方法			
講義・演習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験			
学生へのメッセージ			
本講義は多くが卒業生が担当しますので、より積極的な授業参加を望みます。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
なし			

コマ	履修内容	教員
1	精神障害の作業療法概論Ⅰ (精神科作業療法のベースとなるもの)	佐々木
2	精神障害の作業療法概論Ⅱ (精神科作業療法の治療について考える)	佐々木
3	精神障害の作業療法Ⅲ (情報収集，面接，観察)	佐々木
4	精神障害の作業療法Ⅳ (評価)	佐々木
5	〃	佐々木
6	精神障害の作業療法Ⅴ (問題点の抽出，治療計画立案)	中塚
7	〃	中塚
8	精神障害の作業療法Ⅵ (症例紹介，まとめ)	佐々木
9	精神科における認知症の作業療法	手塚
10	事例紹介など	手塚
11	精神科デイケアOTの魅力について	堀口
12	発達障害における作業療法 思春期グループでの取り組み	大澤
13	精神科急性期における作業療法	大澤
14	精神科回復期・慢性期における作業療法	大槻
15	試験	担当

科目名	精神障害実習Ⅱ		
担当教員	三浦 太一		
	実務経験		有
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
3	通	1	23
履修目的・授業概要			
精神・認知機能に関する作業療法評価の知識や技術を学習する。知識には、高次脳機能や情動・思考・意思などの精神機能が含まれる。技術では、各種検査や情報収集、面接・観察等の情報収集とその結果の治療的扱いを学ぶ。また、精神科症例のPBL講義も行う。			
到達目標			
1 精神・認知機能と生活への影響・障害について基本的な知識を述べることができる、2 精神・認知機能の作業療法評価の概要を述べることができる、3 精神・認知機能とその評価の例をあげることができる			
授業の形式・方法			
評定は期末試験と、演習課題のレポートや提出物、演習課題参加状況によって行う。			
成績評価の方法・基準			
期末試験60%，レポート課題30%，演習参加態度10%			
学生へのメッセージ			
精神疾患の理解だけが目的ではない。適宜紹介するが、精神医学・心理系の専門書籍だけでなく、広く一般書籍や映画などにも目を通すこと。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
精神障害と作業療法 新版	山根 寛	三輪書店	4000

コマ	履修内容	教員
1	精神障害領域における作業療法評価【総論】	三浦
2	精神障害領域における作業療法評価【非構成的評価：情報収集・面接】	三浦
3	精神障害領域における作業療法評価【活動分析】	三浦
4	精神障害領域における作業療法評価【活動分析】	三浦
5	精神障害領域における作業療法評価【質問紙による評価】	三浦
6	精神障害領域における作業療法評価【質問紙による評価】	三浦
7	精神障害領域における作業療法評価【作業検査、作業遂行】	三浦
8	精神障害領域における作業療法評価【作業療法理論に基づく評価】	三浦
9	精神障害領域における作業療法評価【作業療法理論に基づく評価】	三浦
10	精神障害領域における作業療法評価【作業療法理論に基づく評価】	三浦
11	精神障害領域における作業療法評価【作業療法理論に基づく評価】	三浦
12	精神障害領域における作業療法評価【作業療法理論に基づく評価】	三浦
13	精神障害領域における作業療法評価【評価のまとめ、評価から治療目標設定まで】	三浦
14	精神科作業療法PBL	三浦
15	精神科作業療法PBL	三浦

コマ	履修内容	教員
16	精神科作業療法PBL	三浦
17	精神科作業療法PBL	三浦
18	精神科作業療法PBL	三浦
19	精神科作業療法PBL	三浦
20	精神科作業療法PBL	三浦
21	精神科作業療法PBL	三浦
22	精神科作業療法PBL	三浦
23	精神科作業療法PBL	三浦
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

コマ	履修内容
31	
32	
33	
34	
35	
36	
37	
38	
39	
40	
41	
42	
43	
44	
45	

科目名	発達障害		
担当教員	吉田 雅紀 鎌田 規宏		
	実務経験		有
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
3	前	1	15
履修目的・授業概要 施設や地域から求められる評価法および支援法について学ぶ。			
到達目標 西館担当：各疾患の概要が理解できる。TBL・グループワークを通して理解の進捗を確認できる。 吉田担当：施設や地域から求められる作業療法について理解する。			
授業の形式・方法 講義形式・TBL			
成績評価の方法・基準 TBLでの小テスト10％・試験90％			
学生へのメッセージ 発達障害児を理解する基本的な視点や姿勢を身につけて欲しい。また授業では積極的に発言し討論に参加すること。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
なし			

コマ	履修内容	教員
1	知能検査について	鎌田
2	事例紹介・評価方法と実技 遊びを考えて実践	鎌田
3	〃	鎌田
4	正常発達について	鎌田
5	各疾患の特性について	鎌田
6	発達障害に対しての評価と治療	鎌田
7	事例学習(重症心身障害) 評価および課題の抽出	吉田
8	〃	吉田
9	重症児者の姿勢・運動・感覚	吉田
10	重症児者のADL（主に食事）	吉田
11	重症児者の嚥下・呼吸	吉田
12	重症児者の活動能力をいかした生活支援	吉田
13	事例学習 CP，重症児者の問題解決に向けた取り組み	吉田
14	〃	吉田
15	試験	吉田/鎌田

科目名	発達障害実習		
担当教員	西館 潤 高木 陽出		
	実務経験		有
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
3	通	1	23
履修目的・授業概要			
発達障害領域の作業療法について理解を深め、施設や地域から求められる評価法および支援法について学ぶ。			
西館担当：発達障害で代表される各種疾患の各論・各疾患の概要を学習する。			
到達目標			
1. 各疾患の臨床像を説明できるようになる。			
2. 作業療法の治療、指導、援助内容を考えることができるようになる。			
授業の形式・方法			
講義，演習，施設実習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験，レポート評価			
学生へのメッセージ			
講義内容を理解するには、小さなお子さんのイメージを持つことがとても重要です。身近に小さなお子さんがいる場合には、積極的に関わって、言動をよく観察してみてください			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
なし			

コマ	履修内容	教員
1	発達障害各論① 脳性まひについて	西館
2	発達障害各論②・TBL① 重症心身障害・てんかん・水頭症	西館
3	発達障害各論③ 二分脊椎・分娩麻痺・その他整形疾患	西館
4	発達障害各論④ 筋ジストロフィー	西館
5	発達障害各論⑤・TBL② 自閉症・注意欠陥多動・学習障害	西館
6	発達障害 前半試験	西館
7	たかぎ発達支援室 高木OTR 講義	高木
8	〃	高木
9	〃	高木
10	〃	高木
11	〃	高木
12	〃	高木
13	〃	高木
14	〃	高木
15	〃	高木

コマ	履修内容	教員
16	たかぎ発達支援室 高木OTR 講義	高木
17	〃	高木
18	〃	高木
19	〃	高木
20	〃	高木
21	演習1 施設実習	高木
22	演習2 施設実習	高木
23	試験	高木
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

コマ	履修内容
31	
32	
33	
34	
35	
36	
37	
38	
39	
40	
41	
42	
43	
44	
45	

科目名	高次神経障害		
担当教員	西口 嘉和		
	実務経験		有
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
3	前	1	15
履修目的・授業概要			
高次脳機能の基礎知識および作業遂行上の問題を学び、作業療法における評価の意義や代表的な検査、アプローチ方法などを学ぶ。			
到達目標			
1：高次脳機能障害の特徴を知る			
2：医学的知識と心理学的知識を結びつけられる			
3：高次脳機能障害が、実際の生活の中でどのように影響するかを予測できる			
4：具体的かつ役立つプログラムを立案できる			
授業の形式・方法			
教科書および担当教員作成のプリントを用いながら、主として講義形式で行う。			
成績評価の方法・基準			
小テスト20%、本試80%。出席状況と課題で増減			
学生へのメッセージ			
脳科学を学ぶためには、学術本だけでなく、一般書籍やTV番組などにも目を通しておくの良い。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
高次脳機能作業療法学第3版	鈴木孝治（編）	メジカル・ビュー	4400

コマ	履修内容	教員
1	オリエンテーション。総論と脳の局在①：分類法と特徴	西口
2	総論と脳の局在②：「感覚統合脳」の概念	西口
3	総論と脳の局在③：脳の血流と画像	西口
4	高次脳機能障害とは①：定義	西口
5	高次脳機能障害とは②：診断基準と病態	西口
6	高次脳機能障害とは③：注意障害・記憶障害	西口
7	高次脳機能障害とは④：失語・失行・失認	西口
8	高次脳機能障害とは⑤：遂行機能障害・社会的行動障害・劣位半球症状	西口
9	高次脳機能障害の評価①	西口
10	高次脳機能障害の評価②	西口
11	神経心理学的検査①	西口
12	神経心理学的検査②	西口
13	高次脳機能障害への作業療法介入①	西口
14	高次脳機能障害への作業療法介入②	西口
15	本試験	西口

科目名	作業療法研究法		
担当教員	鈴木 渉		
	実務経験		有
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
4	前	1	15
履修目的・授業概要			
研究法の基礎について学ぶ。特に量的研究を中心とし論文の分析，データ分析，研究計画書の書き方から論文作成までのプロセスを学ぶ。			
到達目標			
一連の研究プロセスを学び，論文を読む能力および分析能力を身に着ける。			
授業の形式・方法			
講義と演習			
成績評価の方法・基準			
研究計画書発表100%から欠席・遅刻回数を減じる。			
学生へのメッセージ			
各自の卒論テーマを踏まえた講義，グループワークを行う。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
作業療法研究法	山田孝	医学書院	¥3,990
国語教育研究ハンドブック	竹内理	松柏社	¥3,500
心理統計	小宮あすか	講談社	¥2,800
作業で創るエビデンス	友利幸之助	医学書院	¥4,000

コマ	履修内容	教員
1	研究疑問の作り方	鈴木
2	論文の読み方	鈴木
3	研究疑問の構造化	鈴木
4	信頼性と妥当性	鈴木
5	バイアス	鈴木
6	研究デザイン	鈴木
7	研究のタイプ	鈴木
8	統計の基礎知識	鈴木
9	記述統計	鈴木
10	推測統計	鈴木
11	推測統計	鈴木
12	質的研究法	鈴木
13	質的研究法	鈴木
14	質的研究法	鈴木
15	質的研究法	鈴木

科目名	作業療法研究実習Ⅰ		
担当教員	川上 和敏, 西口 嘉和 石井 綾子, 鈴木 渉 三浦 太一, 西舘 潤		
	実務経験		有
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
3	通	1	45
履修目的・授業概要			
OT研究法の講義を踏まえ、各グループに分かれて作業療法研究のプロセスを実践し、研究に関する関連手法の理解を深める。作業療法研究実習Ⅱ（発表、論文作成）に繋げる。			
到達目標			
研究レビューと文献研究の重要性を理解する。 研究疑問を生成し、研究命題をつくる。 研究内容に応じた手法やデザインについて検討する。			
授業の形式・方法			
演習			
成績評価の方法・基準			
参加態度と研究活動貢献度			
学生へのメッセージ			
最後まで粘り強く向き合うこと。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
なし			

[illegible]

科目名	地域作業療法学Ⅰ		
担当教員	西口 嘉和		
	実務経験		有
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
3	通	1	15
履修目的・授業概要			
①手の外科分野（腱断裂，末梢神経損傷）および下肢整形疾患（変形性股関節症）における基本的知識と介入方法について学ぶ．②MTDLPの意義および作成方法について学ぶ．③問題基盤型学習（PBL）方式を用いた症例検討を行う			
到達目標			
①腱断裂，末梢神経損傷，下肢整形疾患により作業遂行障害をきたした症例への援助方法を修得する．②MTDLPの意義を理解し，模擬事例を通してシートが作成できる．③PBLを通じ，症例の問題点・利点を明確にし，不足情報を自ら調べられる			
授業の形式・方法			
講義，グループワーク			
成績評価の方法・基準			
テスト，レポート，出席率など			
学生へのメッセージ			
整形分野の作業療法は国家試験にかなりの割合で出題される．また，作業療法独自の介入方法であるMTDLPを理解し臨床実習で活用してほしい．			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格

コマ	履修内容	教員
1	腱断裂①	西口
2	腱断裂②	西口
3	腱断裂③	西口
4	末梢神経損傷①	西口
5	末梢神経損傷②	西口
6	末梢神経損傷③	西口
7	変形性関節症①	西口
8	変形性関節症②	西口
9	MTDLP①	西口
10	MTDLP②	西口
11	MTDLP③	西口
12	MTDLP④	西口
13	MTDLP⑤	西口
14	PBL①	西口
15	PBL②	西口

科目名	地域作業療法学Ⅱ		
担当教員	西口 絵里子 久世 昭宏(他3名)		
	実務経験		有
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
3	通	1	15
履修目的・授業概要			
1. 地域にある施設での作業療法士のあり方を学ぶ。 2. 作業療法を実践する上で、“大切なこと”を身につける。			
到達目標			
1. 地域作業療法の概略を理解し、説明することができる。 3. 地域作業療法の実践について事例検討をし、まとめ、発表することができる。			
授業の形式・方法			
講義・演習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験、レポート、参加態度			
学生へのメッセージ			
地域作業療法は、全ての年齢や障害児・者、またその可能性のある人が対象です。そこではその人らしい生活を意識して、専門性を発揮できます。これまでの授業や実習の経験を活用し、積極的に参加しましょう。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
新しい介護	大田仁史 他	講談社	3,900
実用介護事典	三好春樹 他	講談社	3,900
作業療法ジャーナル第39巻5号	藤原茂 他	三輪書店	1,550

コマ	履修内容	教員
1	オリエンテーション： 授業の進め方，自己紹介，地域にある施設の概要，グループワーク	西口
2	老人保健施設での作業療法	西口
3	〃	西口
4	地域での作業療法：事例検討 グループワーク	西口
5	地域での作業療法（訪問編）	西口
6	地域での作業療法（訪問編）	西口
7	まとめ・プレゼンテーション	西口
8	地域での作業療法士の活動，訪問看護ステーションでの役割	久世
9	地域で関わる関係職種	久世
10	住宅改修，福祉用具導入の実際	久世
11	介護保険制度を学ぶ	久世
12	通所リハ	菊池
13	作業所のOT	日置
14	訪問リハ	高木
15	試験(西口・久世)	担当

科目名	生活環境論		
担当教員	石井 綾子		
	実務経験		有
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
3	前	1	8
履修目的・授業概要			
高齢化社会の現状の理解と建築知識を理解しつつ、住宅改修時の一般的な例を学ぶ。また、疾患ごとの特徴を捉えた住宅改修を理解する。			
到達目標			
介護保険制度と住宅改修の基本的知識の理解を深める。			
授業の形式・方法			
講義			
成績評価の方法・基準			
筆記試験 出席状況にて増減			
学生へのメッセージ			
在宅で生活される対象者の方に住宅改修の知識を付けて、福祉用具の選定や住宅改修のアドバイスを出来るようになります。配布資料で講義するので、ファイルを用意してください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
OT/PTのための住宅環境整備論 第2版	野村 歡	三輪書店	4620
福祉住環境コーディネーター 2級公式テキスト 改訂5版	東京商工会議所		4950
リハビリテーションテキスト 生還環境学		クロスライン	4,200

コマ	履修内容	教員
1	住まいと高齢社会	石井
2	介護保険制度と住宅改修	石井
3	建築の知識と改修の実際（手すり・通路幅）	石井
4	建築の知識と改修の実際（トイレ・お風呂）	石井
5	建築の知識と改修の実際（台所・洗面所）	石井
6	実際の住宅改修例と国家試験出題問題	石井
7	実際の住宅改修例と福祉用具紹介（ベッドや車いす・リフター等）	石井
8	筆記試験	石井
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	臨床実習Ⅱ		
担当教員	作業療法学科教員・実習指導者		
	実務経験		有
対象学年	講義時期	単位数	
3	前	4	180時間
履修目的・授業概要			
臨床評価実習では、実習指導者の指導・監督の下、対象者に対して作業療法評価を実施する。具体的には、対象者に対し観察、面接、検査、測定評等を行い情報収集し、記録・報告を通して対象者の全体を把握する。			
到達目標			
1.作業療法士としての知識・技術・臨床推論・態度など基本的資質を習得する。			
2.様々な手段で情報収集ができる。			
3.収集した情報を基に対象者の現状をの別ことが出来る。			
授業の形式・方法			
実習			
成績評価の方法・基準			
実習地での成績、実習終了後の報告・報告書の内容			
学生へのメッセージ			
実習は対象者や関係者、実習施設の好意により行われるため感謝と礼儀を忘れないこと。日頃から健康管理に努め、特に臨床実習期間は健康に留意すること。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
臨床実習の手引き	本校資料		

[illegible]

科目名	臨床実習Ⅲ		
担当教員	作業療法学科教員・実習指導者		
	実務経験		有
対象学年	講義時期	単位数	
3	後	8	360時間
履修目的・授業概要			
作業療法プロセス（臨床実習の手引き参照）の各項目を実施可能にする。 学内及び評価実習で学んだ知識と技術を実践する。			
到達目標			
1.作業療法士としての知識・技術・臨床推論・態度など基本的資質を習得する。 2.指導者の指導の下一連の作業療法を実践できる。 3.チームにおける作業療法の役割と機能がわかる。 4.義務と責任および倫理観を修得できる。			
授業の形式・方法			
実習			
成績評価の方法・基準			
実習地での成績、実習終了後の報告・報告書の内容			
学生へのメッセージ			
実習は対象者や関係者、実習施設の好意により行われるため感謝と礼儀を忘れないこと。日頃から健康管理に努め、特に臨床実習期間は健康に留意すること。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
臨床実習の手引き	本校資料		

[illegible]